

# 江戸川乱歩、巴里にやって来た。

ジェラルド・ブル  
(Gérald Peloux)

パリにおける江戸川乱歩国際シンポジウム

(二〇一六年一〇月一四・一五)

パリ日本文化会館とパリ・デイドロ大学において、日本国際交流基金その他の後援で、二〇一六年一〇月一四・一五両日に開催された国際シンポジウム「Edogawa Rampo ou les labyrinthes de la modernité japonaise」(「江戸川乱歩、あるいは近代日本の迷宮」)は、乱歩研究、ミステリ文学研究、大衆文化研究の第一線で活躍している欧州、北米、日本の研究者を一六名集め、乱歩に関する学術的、また文化的なイベントを欧州で初めて行った。

乱歩とフランスの関係は意外に古い。『芋虫』は、フランス語での初めての翻訳として一九五四年四月号のミステリ

専門誌『Noir Magazine』に掲載され、一九七四年の『鏡地獄』(『Utopie asiatique』掲載)の翻訳を経て、一九八〇年後半から一九九〇年代前半まで南フランスの出版社、フィリップ・ピキエ(Philippe Picquier)出版社から多く出版されるようになった。二一世紀に入り、丸尾末広の乱歩諸作の漫画化の仏訳、フランス人のバーベット・シュローダー監督の『Enju: La Bête dans l'ombre』(二〇〇八年)という『陰獣』の映画化、今まで顧みられていなかった長編小説の仏訳(『孤島の鬼』の仏訳は二〇一五年に刊行され、高く評価された)などにより、乱歩の影響はフランスの大衆文化に想像以上に浸透してきている。同時に、一九七〇年代に入ってから、大衆文化の再評価、文学理論の中の読者論、視覚論、ジェンダー論、ポストコロニアル理論、カルチュ

ラル・スタディーズなどの諸理論により、乱歩の重要性とモダニティが再発見・再評価されるようになったのは、先ずは、アメリカと日本であった。今回のパリ・江戸川乱歩国際シンポジウムは、以上の変遷をもとに、また、没後五一年目に、日・米・欧の三つの視点を交差しながら、江戸川乱歩という人物、その作品、その背景とディスクールの再評価の契機となった。

アメリカと日本における三回の「乱歩コンファレンス」(第一回 シカゴAASプレコンファレンス・二〇〇一年三月、第二回 ニューヨーク大学・二〇〇七年四月、第三回 立命館大学・二〇〇七年一月二月)の経験と成果を踏まえ、今回のパリ・江戸川乱歩国際シンポジウムに招待された研究者・専門家は、非常に多樣的、かつ充実した研究成果を紹介した。編集者・自伝作家・ライトノベルのジャンルから見た児童文学の作家としての乱歩の執筆活動の多面性、谷崎潤一郎、久生十蘭・エドガー・アラン・ポー・笠井潔などの作品との関係、乱歩の映画の特殊性、乱歩の作品の外国への浸透、乱歩の現在の意味などの様々なテーマが取り上げられてきた。

シンポジウムの閉会式として、江戸川乱歩賞受賞者、江戸川乱歩賞選考委員でもあった桐野夏生さんの基調講演

『小説家の夢と狂気』(『すばる』二〇一七年二月号掲載)を聴くこともでき、乱歩の現代性、ミステリ文学の可能性と多面性などというテーマも取り上げられた。

また、学術的なレベルを超え、日本文化に大きな興味を持つているフランス人にも日本近現代大衆文化の中の乱歩の位置と重要性を紹介、再確認したい、というのが、開催者(パリ・デイドロ大学教授兼日仏会館フランス事務所日本研究センター長・坂井セシル、立命館大学教授・中川成美、セルジー・ポントワーズ大学准教授・ジェラルド・ブル)の一つの希望でもあった。シンポジウム両日、一〇〇人以上の来場者が数えられ、パリ日本文化会館で開催されていた映画フェスティバル、乱歩展覧会も大盛況であった。乱歩の人氣が、研究者ばかりでなく、一般のフランス人にまで及んでいることがあらためて確認された。

シンポジウムの関連イベントとして、パリ日本文化会館の協力で、一日間の乱歩映画フェスティバルが開催された。この特集は、乱歩作品の映画化(田中登監督『江戸川乱歩猟奇館 屋根裏の散歩者』、内川清一郎監督『一寸法師』、増村保造監督『盲獣』等)の特異性、怪奇性、エン

ターテインメント性をより広く認識させた。

また、乱歩という作家の生涯と世界を紹介するために、乱歩映画フェスティバルの傍ら二週間（一〇月一日から二九日まで）、立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センターの協力を得て、復刻版、写真、愛用品、草稿、戦前の『新青年』や戦後の『宝石』、少年探偵団のグッズ、外国語の翻訳版など、またほかの所蔵者からも、丸尾末広のエログロ漫画のスケッチ、映画ポスターなどをもとに展覧会を行った。これにより、乱歩の活動範囲と多面的影響が総合的に把握出来る、画期的な企画となった。パリ日本文化会館の二〇一四年の川端康成シンポジウムと展覧会に続いて、ジャンルを超えて日本近現代文学の代表者として江戸川乱歩が同様にフランス人に紹介されて高く評価された意味は、非常に大きいといえよう。

（セルジー・ポントワーズ大学）



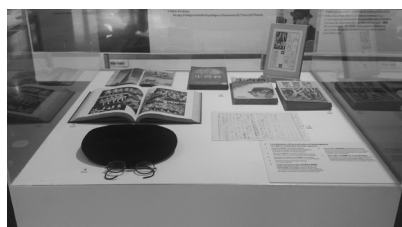
乱歩展覧会・ボックス②  
「乱歩の作品の多面性」



乱歩展覧会 「江戸川乱歩 仮面の魔術師」の  
パネル（一部）



乱歩展覧会・ボックス③  
「グローバル化と多メディア化」



乱歩展覧会・ボックス① 「作家・乱歩の誕生  
と戦前のエログロナンセンス」



江戸川乱歩国際シンポジウム 一日目  
パリ・ディドロ大学にて（休憩時間）



乱歩展覧会 1968年の『黒蜥蜴』のフランスの  
映画ポスター（1984年）



江戸川乱歩国際シンポジウム 二日目  
パリ日本文化会館にて

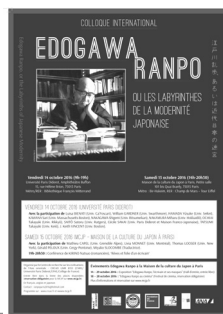


乱歩展覧会の来場者

江戸川乱歩、あるいは近代日本の迷宮  
Edogawa Ranpo ou les labyrinthes de la modernité japonaise  
Edogawa Ranpo, or the Labyrinths of Japanese Modernity

日時：2016年10月14日（金）～15日（土）

会場：パリデイドロ大学 ビュフォン棟  
パリ日本文化会館 小ホール



1日目 パリデイドロ大学

ビュフォン棟 9:00～19:00

歓迎の挨拶：パリデイドロ大学代表、東アジア文化研究所所長

Claire-Akiko BRISSET (Université Paris Diderot)

※基調言語：フランス語と日本語と英語（事前に発表レジュメ回覧）

1. RANPO, LE CHAMP LITTÉRAIRE (1923–1965)

乱歩と文学の「場」(1923年–1965年)

司会：Emmanuel LOZERAND (INALCO)

9:30 Cécile SAKAI (Univ. Paris Diderot)

江戸川乱歩 2016：日本の探偵／推理小説、文化遺産、再読、再創作

10:00 落合教幸（立教大学、江戸川乱歩記念大衆文化研究センター）江戸川乱歩初期作品の草稿について

10:30 浜田雄介（成蹊大学）『黄金仮面』一大衆社会における「顔」

11:00 休憩

11:15 SAITO Satoru (Univ. Rutgers) ライトノベルから見た『少年探偵団』

11:45 KAWANA Sari (Univ. Massachusetts Boston) 日本探偵小説の「編集長」としての乱歩

12:15-45 全体討論

2. RANPO, SES MAÎTRES ET SES PAIRS

乱歩の師たちと仲間

司会：Anne-Bayard SAKAI (INALCO)

14:00 Luisa BIENATI (Univ. Ca'Foscari, Venice) 谷崎潤一郎初期作品が江戸川乱歩諸作に及ぼした影響

14:30 J. Keith VINCENT (Univ. Boston) 江戸川乱歩の『湖畔亭事件』と谷崎潤一郎の『白昼鬼語』の中の倫理観とのぞき見趣味

15:00 William GARDNER (Univ. Swarthmore) 帝都の下の迷宮—江戸川乱歩の『黒蜥蜴』と一久生十蘭の『魔都』に於ける政治・テキストの「ナンセンス」

15:30 全体討論

16:00 休憩

3. AU-DELA DE RANPO—Images et subversion—

乱歩をこえて—映像と背徳—

16:15 巽孝之（慶応義塾大学）群衆の使命：ポー、乱歩、笠井潔 “The Task of the Crowd: Poe, Ranpo and Kiyoshi Kasai”

- 16:45 中村三春（北海道大学）視覚の論理と言語の論理—『パノラマ島奇談』と『陰獣』
- 17:15 中川成美（立命館大学）怪物たちの眠れない夜—江戸川乱歩とエロ・グロ・ナンセンス
- 17:45 全体討論 ディスカッサント：Reiko ABE AUESTAD（Univ. Oslo）

2日目 パリ日本文化会館 小ホール 14:00～18:00

歓迎の挨拶：SUGIURA Tsutomu（パリ日本文化会館館長）

※基調言語：フランス語

LES TRENTE-SIX VISAGES DE RANPO

乱歩二十面相

司会：Pierre BAYARD（Université Paris 8 - Vincennes-Saint-Denis）

- 14:15 Gérald PELOUX（Univ. Cergy-Pontoise）未来の為に書く：江戸川乱歩の自伝的欲動
- 14:45 Miyako SLOCOMBE（traductrice）乱歩のフランス語訳と受容：魅了の関係
- 15:15 Mathieu CAPEL（Univ. Grenoble Alpes）江戸川乱歩の映画の動物図鑑
- 15:45 休憩
- 16:00 Thomas LOOSER（Univ. New York）不良作：江戸川乱歩諸作における労働の犯罪
- 16:30 Livia MONNET（Univ. Montréal）エロ・グロの窃視を超えて：若松孝二『キャタピラー』と塚本晋也『双生児』における資本主義社会、無機的生活、動物性
- 17:30～18:30 討論、発表者全員
- 19:00～20:30 記念基調講演  
桐野夏生「小説家の夢と狂気」

※10月13日には、ディドロ大学にて高野史緒による特別講演もおこなわれた。

「江戸川乱歩とドストエフスキー Roman policier と純文学の挟間」